

日本人名における形容詞

頼 錦 雀

1. 始めに

名前は言語の縮図とも言える。先祖伝来の名字とは違って、生まれた子に付けるものなので、名付け人の心理や言語習慣が込められている。前に、筆者は「悪魔命名」に引かれて、日本人の名前について考察したことがある。考察しているうちに、人名は正に言語の語用論的結晶だと気付いた。この度は、最近特に関心を持っている形容詞に絞って、中国人名と対照しながら、形容詞による日本人名の形、音、義の実態及び特質を明らかにして、日本語形容詞の語用論的研究を試みたい。

2. 表記的研究

筆者の考察によると、形容詞による日本人名の表記類型は次のようである^①。

2.1 男子名の類型

(1) 名前全体が形容詞の場合

① 主な考察資料は『1990 知恵蔵』「人名情報」及び荒木良造『名乗辞典』である。

A. 単純語の場合

a. 漢字表記

- (a)一字漢字表記 (例) ^{ひろし}宏 ^{たかし}隆 ^{しろ}白 ^{さと}悟 ^{たくま}逞
- (b)二字漢字表記 (例) ^{きよし}清志 ^{しげし}茂士 ^{まさし}正四 ^{さとし}聰敏 ^{たかし}東岳 ^{ひろし}東洋
- (c)三字漢字表記 (例) ^{ひろし}比呂志 ^し比佐志

b. 仮名表記

- (a)平仮名表記 (例) たかし とし ひろし
- (b)片仮名表記 (例) タカシ ヒロシ
- (c)平仮名・片仮名交じり表記 (用例なし)

c. 漢字・仮名交じり表記 (例) ひろ^し志

B. 複合語の場合 (形容詞 1 + 形容詞 2)

a. 漢字表記 ^{まさひさ}昌久 ^{ひろよし}宏悦

b. 仮名表記 (用例なし)

c. 漢字・仮名交じり表記 (用例なし)

(2) 形容詞成分による合成語・複合語の場合

a. 漢字表記

- (a)一字漢字表記 (用例なし)
- (b)二字漢字表記 (例) ^{たかまさ}高政 ^{ひろし}弘治 ^{たかお}孝雄 ^{ひさと}久人 ^{よしと}義人 ^{のりひさ}憲久 ^{かずよし}和嘉
- (c)三字漢字表記 (例) ^{よしさぶろう}芳三郎 ^{しげひこ}滋比古 ^{としお}外志夫

b. 仮名表記 (例) ひろみ

c. 漢字・仮名交じり表記 (用例なし)

2.2 女子名の類型

(1) 名前全体が形容詞の場合

A. 単純語の場合

a. 漢字表記

- (a)一字漢字表記 (例) ^{しろ}白 ^{かる}軽 ^{うつく}寵 ^{ひろ}決 ^{よし}熹

(b)二字漢字表記 (用例なし)

(c)三字漢字表記 (用例なし)

b. 仮名表記

(a)平仮名表記 (例) とし

(b)片仮名表記 (用例なし)

(c)平仮名・片仮名交じり表記 (用例なし)

c. 漢字・仮名交じり表記 (用例なし)

B. 複合語の場合 (形容詞 1 + 形容詞 2)

a. 漢字表記 (用例なし)

b. 仮名表記 (用例なし)

c. 漢字・仮名交じり表記 (用例なし)

(2) 形容詞成分による合成語・複合語の場合

a. 漢字表記

(a)一字漢字表記 (用例なし)

(b)二字漢字表記 (例) まきこ としこ よしえ よしみ やすえ
雅子 敏子 芳恵 良美 安英

(c)三字漢字表記 (例) まさこ きよこ
真佐子 喜代子

b. 仮名表記

(a)平仮名表記 (例) よしこ ちかこ

(b)片仮名表記 (例) ヒロコ

(c)平仮名・片仮名交じり表記 (用例なし)

c. 漢字・仮名交じり表記 (例) たか子 さと子 ヤス子

2.3 形容詞による日本人名の表記の特質

形容詞による日本人名の表記の特質には、次のようなことがある。

2.3.1 字数が一～三が原則であること

中国人の名前は一字か二字が原則である。それに対して、日本人名の字数が一～三が原則である。この一～三の原則は形容詞による日本人の名前の場合にも同

じことである。名字が中国にもある「原・林・呉」などの場合、「名字＋名前」全体が二字か三字の漢字表記になると、中国人名と間違えられる恐れがあるが、四字か四字以上の漢字表記では、日本人名であることが直ぐに分かる利点を持っている^②。

2.3.2 表記の種類が多様多式であること

中国語には漢字の他に、注音符號第一式の「ㄅ ㄆ ㄇ ㄉ」と注音符號第二式の「訳音符號」（ローマ字）があるが、パスポート、名刺など横文字の必要がある物を除いて、漢字で書くのは普通である。一方、日本語では、パスポートや名刺、外国向けの映画の字幕などは、ローマ字で名を記すこともあるが、普通、人名に使用できる文字は、平成2年（1990年）戸籍法施行規則第六〇条第二号の別表第二に掲げられた「人名用漢字別表」の二八四字のほか、常用漢字（およびその旧体字の一部）、平仮名、片仮名である。そして、漢字と仮名との組み合わせで、バラエティーに富んだ名前の表記世界が作り出されている。それは世界でも独特なものである。なお、仮名表記か漢字仮名交じり表記の場合、日本人名だと直ぐ見当が付く。

2.3.3 男女別があること

中国人名の表記様式においては、男女の区別がない。つまり、漢字一字か二字である。それとは違って、漢字、平仮名、片仮名を有している日本では、男女別がある。昔は、男は漢字で、女は仮名で名を記すのが原則だったが^③、現代ではそうでもない。形容詞による日本人名の表記を見た場合、男子名は漢字表記の他に、平仮名表記、片仮名表記及び漢字平仮名交じり表記がある。漢字表記の中には、「比呂志・滋比古・外志夫」のような万葉仮名式表記がある。接尾語と合成した時は、「たけひこ・まきお・としお・はやと・ひろお」のように、名前全体が漢字表記に

②中国人名でも複姓か既婚の女性の場合は四字になるが、「歐陽〇〇／范姜〇〇／邱頼〇〇」
というように、日本人名と全然違ったものである。

③寿岳章子『日本人の名前』p146参照。

なるのは普通である。昔にない仮名表記名や漢字仮名交じり表記名は現在、芸能人に多用されている、例えば、五木ひろし、郷ひろみ、本宮ひろ志など。それに対して、女子名は漢字表記の他に、平仮名表記、漢字平仮名交じり表記、漢字片仮名交じり表記がある。接尾語が付く場合は、

こ よしこ・ヒロこ・たか子・ヤス子・政子・真佐子

み ひろみ・良美

え 安英・久江・芳恵・芳枝

のように、男子名と違った多彩な表記様式になる。漢字表記の中には、「比佐子」のような「万葉仮名+子」型のものがある。

但し、「ひろみ・弘美／まさみ・雅美・政美」のようなものは、男子名にも女子名にもなる。そして、「形容詞語幹+接尾語『美』」が男子の名にもなる点は、「美」の付いているのが殆ど女子名である、という中国語社会の通念とは違っている。

2.3.4 漢字字体の問題

中国語の漢字には正字、俗字の区別があるが、現行の基準は1982年教育部公告の「常用國字標準字體表」である。人名表記に使われる字もそれに準ずるものである。一方、日本語では、基準として人名に使用できる漢字は、「人名用漢字別表」の二八四字のほか、常用漢字および常用漢字の旧体字の一部である。そして、「^{ひとし}齊・^{きとし}斉／^{ひろし}聰・^{ひろし}聡／廣・広」のように、同じ意味でも、人によって旧体字だったり新体字だったりのことになる。「富・冨」の区別でも気にする人がいる日本社会なので、難しいことである。

2.3.5 同音語異漢字表記の多いこと

日本人名世界における同音語異漢字表記の問題は、随分複雑である。表一で見たように、一つの音に対応する漢字表記は多々ある。日本人名を音で聞いて表記しようと思っても難しい。この点、中国語の同音異字と同じように見えるが、質

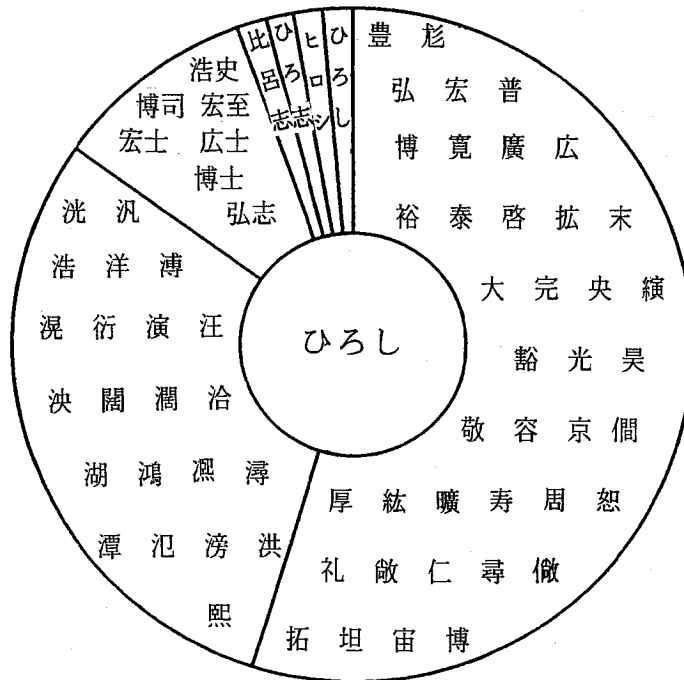
(表一) 形容詞による日本人名の同音語異漢字表記例

音	表 記 例													
ひろし	ひろし ヒロシ													
	ひろ志 比呂志													
	弘	宏	博	寛	廣	広	裕	大	完	啓	泰	續	央	
	拡	豁	光	昊	憫	敬	洪	厚	紘	曠	寿	周	恕	
	敞	徹	仁	尋	拓	坦	宙	博	普	豊	彪	末	容	
	礼	浩	洋	汎	洸	溥	滉	衍	演	汪	決	闊	濶	
	湖	濼	京	鴻	洽	潯	潭	汜	滂				熙	
弘志	宏至	宏士	広士	博士	博司	浩史								
よし	惟 ^{たか}	禕 ^{たけ}	大 ^{まさ}	孟 ^{たけ}	貞 ^{さだ}	允 ^{かず}	英 ^{なが}	栄 ^{つぐ}	胤 ^{あつ}	萱 ^{あつ}	篤			
	楯 ^{たて}	衛 ^み	悦 ^{ただ}	耳 ^{うじ}	忠 ^{さだ}	宴 ^{あき}	氏 ^え	燕 ^き	定 ^お	温 ^お	可 ^え	朗 ^き	快 ^お	雄 ^お
	州 ^{くに}	又 ^{ざね}	凱 ^{なが}	実 ^み	覚 ^{たか}	長 ^{すえ}	幹 ^{ただ}	示 ^{いさ}	義 ^{なが}	垣 ^{いさ}	季 ^{いさ}	巖 ^記	熙 ^{なが}	永 ^{なが}
	良 ^{やす}	祺 ^{ひさ}	寿 ^{のぶ}	祺 ^{しげ}	房 ^{まさ}	喜 ^{やす}	重 ^{てる}	熹 ^曜	昌 ^貴	熹 ^{のり}	安 ^{やす}	歆 ^宜	曜 ^慶	禮 ^宜
	久 ^{ひさ}	宜 ^{ひろ}	誼 ^{つね}	衡 ^{まさ}	義 ^{ひろ}	経 ^敬	羲 ^佑	正 ^休	曦 ^広	正 ^狂	曦 ^{四郎}	正 ^贊	曦 ^{五郎}	正 ^郎
	孝 ^{たか}	恭 ^{ひで}	欣 ^{かず}	秀 ^{ちか}	欽 ^慶	一 ^{のぶ}	敬 ^馨	親 ^{くに}	敬 ^{より}	親 ^芸	喜 ^堅	喜 ^守	喜 ^公	喜 ^賢
	元 ^{もと}	源 ^{のり}	愿 ^{まさ}	徳 ^{むね}	彦 ^{やす}	正 ^康	彦 ^工	正 ^攻	彦 ^質	正 ^美	彦 ^行			
	伊 ^お	男 ^お	紀 ^お	男 ^桂	夫 ^潔	夫 ^お	夫 ^謙	夫 ^元	夫 ^お	夫 ^元	夫 ^お			
	愼 ^お	子 ^懌	子 ^賀	子 ^愷	子 ^懽	子 ^飲	子 ^僖	子 ^愷	子 ^嬖	子 ^愷	子 ^嬖	子 ^嬖	子 ^嬖	子 ^嬖
	頤 ^お	子 ^徽	子 ^吉	子 ^姁	子 ^誼	子 ^妊	子 ^巧	子 ^佳	子 ^儀	子 ^儀	子 ^儀	子 ^儀	子 ^儀	子 ^儀
	よし	み	嘉											

が違っている。「ひろし」を例として図形で表示すると、図一のようになる。

図一を見て分かるように、「ひろし」は一つの意味なのに、漢字によっていろいろ違った概念が与えられている。これは漢字本家の中国語でも類推したり想像したりできないことである。特に、「弘志・宏至・宏士・広士・博士・博司・浩

(図一) 「ひろし」の表記に対応する概念



史」などの表記は、昔、二字漢字の中国人名に習った形跡を残した外、誤読を避ける意図や人と区別したい心理が入って、効果的である^④。

2.3.6 漢字表記と仮名表記と、機能が違っていていること

前に見たように、日本人名においては、一つの音に対応する表記が多様多式である。表記によってそれぞれの機能が違う。万葉仮名で名前を記す場合は、古風的情緒がある。万葉仮名を除いて、漢字で名前を記す場合は、名前に含まれている意味が漢字表記によって具体化され、一目瞭然である。例えば、荒木良造『名乗辞典』に載っている「よし」を表わす漢字は308字あるが、

英：人より優れる。麗しい。

可：よい。よしとする。聞き入れる。できる。

喜：喜び。嬉しがる。

^④拙作「日本人の名前」を参照されたい。

美：見た目に綺麗である。よい。おいしい。褒める。

義：人として当然なすべき正しい道。わけ。意味。

のように、漢字で「よし」の違った側面の性格を表わしている。これは仮名表記だけでは表現できないことである。一方、仮名で名を記す場合、誤読される心配がない。例えば、日本テレビのキャスター、桜井良子さんが1994年4月4日放送の番組から「桜井よしこ」と名乗ることになったことには、自分の名を間違えられたくない心理が込められている^⑤。仮名表記名では、仮名の持っているやさしさが効果的で、親しみやすい感じが与えられるのも、漢字表記と違っている。また、仮名表記は漢字のような具体的な意味が感じられない代わりに、無限の意味が想像できる可能性がひめられている^⑥。これも漢字しかない中国人名では考えられない趣である。

2.3.7 制限された漢字で無限の表記様式を呈したこと

2.3.5で見たように、日本人名世界における同音語異漢字表記は多くある。そこには、二つの事実が挙げられる。

2.3.7.1 人名用漢字の読みが制限されていないこと

戸籍法施行規則では人名用漢字を制限しているが、その読みについては別に触れていないようである。訓読みか音読みかは自由だし、訓読みもまた恣意的になっているのは実情である^⑦。逆に言えば、漢字の読みが自由である故、「よし」に当てられる漢字が308字あるという、同音語異漢字表記が出来たわけである。これは、字音が制限されて、「苦：にがい・くるしい／細：ほそい・こまかい」というように一つの漢字の字音に精々二つの形容詞が認められた「常用漢字表」だけで考えては、とても役立たないことである。

⑤1994年4月1日産経新聞による。

⑥渡辺三男「名づけのねらい」『名づけ辞典』を参照。

⑦寿岳章子前掲書 p99～102・渡辺三男『名づけ事典』実例編参照。

2.3.7.2 万葉仮名が使用されること

日本人名表記には、「^{ひろし}比呂志」「^{たかし}多加志」「^{ちかし}千香士」というような、世界に類例のない「万葉仮名表記」がある。それによって、一つの読みに対応する表記はいくつにもなる。例の「悪魔命名」でも、「悪魔」が認められなかったので「阿久魔」というのが提案されたように、制限された漢字で無限の表記様式を作り出す可能性がある。

このような表記技術は、中国語では出来ないことである。

3. 音声的研究

日本人名における形容詞を音声的に見た場合、次のような問題が取り上げられる。

3.1 形容詞関係の人名のアクセントはどうなっているのか。

田代晃二によれば、現代形容詞のうち、1割は平板型で、あとの9割は起伏型である^⑧。しかし、それは人名形容詞には応用できない情報である。何故なら、人名に使用された形容詞のうち、古語の終止形「～し」と語幹が殆どで、現在形容詞の終止形の形で使われるのは僅か「おおい」の一例である。そして、形容詞による人名のアクセントは、もとの形容詞のアクセントとは違う。これは、人名に使われても元の声調が変わらない中国語とは事情が異なっている。

形容詞による人名のアクセントを整理すると、次のようになる^⑨。

A. 単純語の場合はすべて頭高型である。

(例) ^きと (悟) ^{しろ} (白) ^{あつ}し ^{たか}し

B. 合成語の場合 (形容詞語幹 + 決まった接尾語)^⑩

⑧『美しい日本語の発音』p40参照。

⑨秋永一枝「共通語のアクセント」・『明解日本語アクセント辞典』を参照。

⑩ここでは便宜上、「え・よ・お・や」などのようなものを接尾語とする。

B1 3拍語

- a. 「み（美）／え（江・枝・恵・栄）／よ（世・代）／お（郎・夫・雄・男）／や（也・哉・弥）」が付くものは平板型となる。

（例）ひろみ まさえ まさよ としお まさや

- b. 「こ（子）／き（樹）／と（人）／じ（二・治・次）」が付くものは頭高型となる。

（例）ひろこ としき まさと やすじ

B2 4拍語

- a. 「ぞう（三・蔵・造）／ろう（郎）」が付くものは平板型と（-2）型の両様になる。

（例）よしぞう よしぞう としろう としろう

- b. 「ひこ（彦）／すけ（助・丞・輔・介・佐・佑・祐・亮）」が付くものは（-3）型になる。

（例）まさひこ たかすけ

- c. 「へい（平）」が付くものは平板型となる。

（例）よしへい

C. 複合語の場合（形容詞と他の品詞との組み合わせ）

- C1 4拍語：（-3）型となるのが殆どである。但し、古くからの名には平板型が多く見られる。

（例）きよもり よしいえ ながちか よしたか
きよまさ まさしげ ひでよし ひでよし

C2 「～ろう」型

- (a) 「～たろう」型：（-4）型となる。

（例）ひろたろう

- (b) 「～いちろう」型：（-3）型と（-4）型の両様になる。

（例）まいいちろう まさいちろう

(c)「～じろう」型：（－4）型となる。

（例）まさじろう

(d)「～さぶろう」型：（－4）型となるのは原則である。

但し、連濁した時は平板型になる。

（例）よしざぶろう

C3 「～のすけ」型：（－3）型となる。

（例）たけのすけ（武之亮）

こうして見ると、形容詞関係の日本人名のアクセントは、元の形容詞より、後に来る接尾語によるものなので、漢字の声調さえ覚えれば無難である中国語のそれより複雑である。

3.2 形容詞が造語成分になっている日本漢字表記人名の読みにはどんなパターンがあるのか。

形容詞関係の日本漢字表記人名の読みを分類すると、次のようになる。

A. 訓読み （例）^{しろ}白 ^{やすし}康 ^{としひこ}俊彦 ^{まさみ}正美 ^{まさたか}昌孝 ^{ひろこ}博子

B. 音読み （例）^ひ比 ^さ佐 ^し志（音仮名＋音仮名＋音仮名）

C. 重箱読み （例）^ふ不 ^じ二 ^{ひろ}洋 ^{とし}登 ^{しゅき}志之

D. 湯桶読み （例）^{とし}敏 ^や也 ^{よしざぶろう}芳三郎 ^{たけし}武士 ^{よしぞう}芳蔵

単純語の場合は当然訓読みであるが、合成語や複合語の場合は、上のA～Dの類型が見られる。Bの音読みは、いわゆる万葉仮名のことである。万葉仮名表記には他に、「^{とし}外^し志^お夫（訓仮名＋音仮名＋訓仮名）」というものもある。古代の万葉表記がこの二十一世紀にもまだ使われていることは、日本人名に伝統の日本語が残っていることを物語っていると思う。この点、古典に因んだものが多い中国人名の場合にも、同じことが言える。

3.3 「高子」は「たかいこ」と読んだのは何故か。

平安時代には、藤原明子（ふじわらのあきらけいこ）（829－900年）と藤原^{たか}高子（842－910年）という女御及び小大君（こおほいぎみ）^①という女歌人が

いた。そして、江戸時代には進藤^{しげいこ}茂子という賀茂真淵の弟子である女歌人がいた。構造としては、「形容詞連体形+子」であるが、それは普通の修飾・被修飾関係の関係ではない。まず、古語では、形容詞の連体形は「～き」型であることが考えられる。これは、化粧用の白粉をさすために「しろきもの→しろいもの」という変化が起こったのと同じく、固有名詞として形容詞と接尾語の「子」が融合して、

takakiko → kakakiko → kakaiko

akirakekiko → akirakekiko → akirakeiko

shigekiko → shigekiko → shigeiko

のように、子音「k」の脱落によって、「たかいこ」とか「あきらけいこ」とか「しげいこ」とかに変化したと解釈して良からう。

「こおほいぎみ」の連濁は、二つの形態素が融合して一つの固有名詞になったことをはっきり説明している^⑪。そして、形容詞による人名にイ音便が生じた現象は、人名における形容詞の語用論的機能を生き生きと呈していると言えよう。

3.4 「良子」は「よしこ」か「りょうこ」か。

日本人名の表記で、外国人が戸惑うだけではなく、日本人にも問題とされているのは漢字の読みのことである。2.3.6で見たように、名前を間違えられないように、「良子」を「よしこ」に改めた人がある。一方、間違った読み方をされても、ハイと答える人もいる^⑫。また、藤原俊成の「俊成」は「としなり」とも「しゅんぜい」とも読む。このように、日本人名の漢字表記の読みは難しいものである。一番速いのは本人に聞くことであるが、外国にいて読み物を読んで日本

⑪「小大君」は、「こおおいのきみ」（『コンサイス人名辞典日本編』）と「こおほいぎみ」（荒木前掲書）と2種の読みが見られるが、ここでは「長女の敬称」（『岩波古語辞典』）の「おほいぎみ」と同じく、「こおほいぎみ」を取る。

⑫小松英雄『日本語の音韻』および北原保雄「形容詞のウ音便」を参照。

⑬寿岳章子前掲書 p101 参照。

語力を身に付ける外国人には、漢字読みの訓練によって多くの読み方に慣れるようにする以外、いい方法がないと思われる。

因みに、荒木良造『名乗辞典』には、人名用漢字で読み方が10種以上（10種を含む）のものは133字ある。

3.5 「よしこ」の表記は？

音声言語は一回性のもので、それを保存するには機械とか文字とかいう道具が使われる。でも、日本人名を表記するには文字学的工夫が要る。筆者の調査によると、日本人に愛用される単純語人名「～し」に当たる漢字表記の種類は、次のようである。

あつし	26種	かたし	11種	きよし	39種
さとし	34種	たかし	87種	たけし	42種
ただし	60種	ちかし	14種	ひさし	22種
ひとし	73種	まさし	21種	やすし	28種

なお、「よし」に当てられる漢字は308種ある^⑭が、複合構造の「よしこ」とか「よし～・～よし」になると、もっと複雑である。

日本人名表記においては、仮名にするか、漢字にするか、漢字仮名交じりにするかは、個人の自由である。この表記の自由性のために、日本人名における音声の文字化は、同音異字の多い中国語と同じく、一大難事である。

3.6 人名における形容詞の音節数は？

次は、人名における形容詞の音節数について見てみたい。

筆者の考察によると、日本男子名は三音節と四音節が多い。そのうち、単純語（例：きよし・まなぶ）は三音節が多く、合成語（例：まさみ・はるお）か複合語（例：きよまさ、さだはる）は三音節か四音節が多い。そして、形容詞成分だけを見ると、単純語では「いさおし」を除いて殆ど三音節（例：つよし）、合成

^⑭2.3.5及び2.3.6を参照されたい。

語・複合語では二音節が主である（例：としお・はやと・きよまさ）。女子名の場合は、単純語は二音節か三音節である（例：あや・みどり）。合成語は、「たかいこ・しげいこ・かおるこ・さとしこ」のような四音節もいくつかあるが、殆どは三音節である（例：みゆき・まさえ・はるこ）。形容詞成分だけを見ると、単純語でも合成語でも殆ど二音節である（例：しろ・たかこ・まさこ）。

結論から見ると、人名造語成分としての形容詞が性別の区別なしに二音節であることは、明らかである。

一字名か二字名が主で、一字が一音節である中国人名と対照して見ると、日本人名の音節数の多いことは一際目立つようになる。

4. 文法的研究

形容詞による日本人名の文法類型には、次のようなものがある。

4.1 男子名の文法類型

A. 単純語

A1 形容詞語幹（例）さと（悟） しろ（白） たくま（逞）

A2 形容詞終止形（例）あつし たかし *おおい

B. 合成語

B1 形容詞語幹＋接尾語（み・お・や・き・と・ひこ・じ・ぞう・ろう・へい など）^⑮

（例）ひろみ としお まさや やすじ よしぞう

B2 接頭語＋形容詞語幹（用例なし）

⑮「お・や・き・と……」などは元々、決まった意味を持って、そして当てられた漢字でいろいろな概念やイメージを表わすが、人名用の場合、元の意味より形式になっているのが多いので、接尾語として扱ってもいいと思う。「こ」の場合も同じである。

C. 複合語

- C1 形容詞 1 語幹 + 形容詞 2 語幹 (例) まさよし やすひろ
- C2 名詞 + 形容詞語幹 (例) かずよし のりひさ すえとし
- C3 動詞 + 形容詞語幹 (例) あきとし みつまさ はるひさ
- C4 形容動詞語幹 + 形容詞語幹 (例) なおよし なおひろ
- C5 形容詞語幹 + 名詞 (例) よしくに としかず
- C6 形容詞語幹 + 動詞 (例) まさはる ひろつぐ ひろゆき
- C7 形容詞語幹 + 形容動詞語幹 (用例なし)
- C8 形容詞語幹 + 複合語 (例) まさいちろう よしさぶろう
- C9 形容詞語幹 + のすけ (例) たけのすけ

4.2 女子名の文法類型

A. 単純語

- A1 形容詞語幹 (例) しろ (白) かる (軽)
- A2 形容詞終止形 (用例なし)

B. 合成語

- B1 形容詞語幹 + 接尾語 (み・え・こ)
(例) ひろみ まさえ よしこ ちかこ
- B2 接頭語 + 形容詞語幹 (用例なし)

C. 複合語 (用例なし)

4.3 人名における形容詞の文法的問題点

ここで取り上げたいのは、「としお・よしこ・なしこ」における「とし・よし・なし」の問題である。

上で見たように、接尾語の「お・こ」の前にくる形容詞は、

- A. 連体形の造語成分 (例: たかい (こ))
- B. 語幹の造語成分 (例: まさ (お))

の二種類ある。その原則によると、一般の古語辞典 (例えば『時代別国語辞典上

代編』・『岩波古語辞典』など)でク活と解釈されている「とし・よし・なし」に「こ」を付けると、

C. ときこ・よきこ・なきこ D. ところ・よこ・なこ

になる。Cはイ音便化すると、「といこ・よいこ・ないこ」になる。イ音便化したものは別として、管見では、CDタイプのいずれも見られず、その変わり、「としお・よしこ・なしこ」が現在でも生きている。そうすると、形容詞による人名の文法類型に、

E. 終止形+接尾語 (例) としお よしこ

という項目を入れれば済むのであろう。しかし、「終止形+接尾語」では、終止形の機能からとても説明がつかないように思われる。

4.4 人名における形容詞の文法的特質

文法的に考察すると、人名における形容詞には、次のような特質がある。

4.4.1 人名に使われる形容詞は語幹か終止形であること

男子名でも女子名でも、単純語の場合、語幹か終止形が用いられるのは原則である。例えば「さと・まさし・おおい」。終止形の場合、「おおい(壬・浩・偉)」は現代語であるが、その他はすべて「～し」形の古語である。複合構造においては、「ひろこ・きよまさ・まさみ・まさじろう」のように、語幹が用いられている。因みに、現代人名形容詞には、「いさお+し→いさおし／み+よし→みよし」のようなものを除いて、殆ど二音節か三音節の単純語で、「いさぎよし」のような複合形容詞がないようである。

但し、連体形が使われる例もいくつかある。管見の及ぶ範囲では、荒木前掲書の「たけき」(連体形)、「たかいこ¹⁶・しげいこ・あきらけいこ」(「連体形+こ」)がそれである。

4.4.2 形容詞による人名には接頭語が登場しないこと

¹⁶「たかいこ」のイ音便については、3.3を参照されたい。

名詞系人名には、「みゆき・こはる」のような接頭語によるものがあるが、形容詞による人名には、そのようなものが見られない。形容詞の語幹はかなり独立的な用法を持っている¹⁷が、接頭語がその前に来ないことは、形容詞語幹と名詞との性格の違いを物語っていると言えよう。

4.4.3 形容詞による人名には男女別があること

4.1、4.2 を見て分かるように、形容詞による女子名の類型は「形容詞語幹」か「形容詞語幹＋接尾語」というシンプルなものである。それに対して、男子名は形容詞単純語のほか、形容詞成分と他の品詞の造語成分との組み合わせによるものが少なくない。拙作「日本人の名前」で考察したように、明治まで、一般庶民の女子名は植物系か動物系が殆どで、男子名は身辺事物のほか、処世規範的で、抽象的な意味を持っているものが多い。形容詞による人名の男女別はそういう古来の人名の内訳と関わっていると思う。

4.4.4 形容詞の疊語が人名に使われていないこと

形容詞には、「あかあか・はやばや」という語幹による疊語がある。しかし、それは人名に使われていないようである。この点、「青青・紅紅・浩浩」のような形容詞疊語式人名を持っている中国語とは違っている。

5. 語彙的研究

人名造語成分としての形容詞を語彙的に考察して見ると、次のようなことが分かる。

5.1 人名に使われる形容詞が限られていること

すべての形容詞が人名に使われるとは限らない。『時代別国語大辞典上代編』には 315 語¹⁸、『品詞別日本語講座 形容詞・形容動詞』には 1300 以上の形容

¹⁷浅見徹・橋本四郎「上代語概説第三章文法」『時代別国語大辞典上代編』参照。

¹⁸蜂矢真郷「『時代別国語大辞典上代編』語末索引稿」による。

詞が掲げられているが、そのうち、人名用のものの延べ語数は100足らずである¹⁹。人名の場合、用語が限られていることは、中国語でも同じ事である。これは言葉の意味に関わっているが、意味の部でまた触れたい。

5.2 人名に使われる形容詞には現代語でないものがあること

古代形容詞は現代語に残存しているものがある、例えば「あつし→あつい・ひろし→ひろい」など。しかし、人名用のもののうち、「いかし・いさおし・いそし・さかし・さとし・たけし・とし・まさし・またし」に当たる「～い」形語は現代語にはない。この現象は、日本の古語に馴染まない外国人を困らせる種の一つになる。

5.3 現行の「常用漢字表」だけでは人名形容詞の解読に間に合わないこと

前に考察したように、人名用漢字の読みには制限がない。一つの人名の音声に当てられる漢字は恣意的である。それに対して、「常用漢字表」は字音が制限されている。故に、常用漢字の旧体字、或いは「常用漢字表」で許容されていない読みの場合、形容詞が130語ぐらい掲げられている「常用漢字表」に頼っても、役に立たないことがある。

6. 意味的研究

筆者の調査によると、人名に愛用される「～し」型形容詞は大体、次のような意味類型に分けられる。

6.1 人名形容詞の意味類型

A. 五感に関するもの

A1 視覚型

容姿 うつく みよし くわし（細）

¹⁹ 「人名情報」『知恵蔵 1990』と荒木前掲書を調査した結果による。

色彩 あかし しろし

繁盛 いかし しげし

分量 とおし ちかし たかし ながし おおし おおい

はやし ひさし ひとし ひろし ふかし ふとし

健康・安泰 やすし

強硬 けわし こわし たけし つよし

動作 とし

A2 味覚型 うまし

A3 嗅覚型 かんばし

A4 触覚型 おもし あつし すずし

A5 聴覚型 (用例なし)

B. 抽象的なもの

知恵 さかし さとし とし

意志・情操 かたし きよし たかし ただし まさし またし

よし よろし

状態 くわし (細・精)

満足 たのし

6.2 形容詞使用から見た日本人の命名心理

上で見たように、人名に愛用される日本語形容詞は偏っている。しかも、悪い意味を持っている言葉は使われていない。ここからは、一般日本人の命名心理や名前に対する社会通念が分かる。いい意味の言葉を使うのは、いい名前の必須条件である。そして、これで例の「悪魔」命名が日本社会に認められにくいと推論できよう。

6.3 同名とは？

人名においては、同一形容詞の同音名前は同名と言えるのか、考えてみたい。中国語では、一つの形容詞には表記が一つあるのは普通であるが、日本語では

そうでもない²⁰。特に日本人名の場合は、前に考察したように、表記様式がカラフルである。違った表記は違った意味を表わすので、たとえ同音形容詞でも、

まさし：正志 正司 正四 政司 政志 政嗣 政史

雅志 雅司 雅士 昌志 昌司 昌史 匡史

.....

というように、文字表記が違えば、同名とは言えないと思う。

7. 結び

命名は言語行動学の一つである。言語によって命名論が違うわけである。中国人は日本人の名前を中国式に読む習慣がある。故に、日本式の読みはどうでもいいようにされがちである。しかし、日本学研究、日本語学研究の立場から見れば、それは本当の日本を理解しようとする態度ではない。日台関係は切っても切れない関係にあることは誰もが知っているけれども、人の代表とも言える大事な名前を重要視しなかったら、真の友情が出来ないし、お互いに助け合おうとする心理も湧いてこないのではないかと思われる。

「人の名前は直接その人に聞けばいい」という声もあるが、しかし、この度の考察で、命名は自由に見えるが、やはり日本人名における形容詞使用にはそれなりの原則があることが分かった。「名はつけられる当人のものであると同時に、社会のものである」²¹。いわゆる「命名の社会通念」というものが日本社会では大切にされている。このことから、たとえ使用文字が許されるものであっても、もし意味上、「社会通念」に反したもの——例えば、「わろし・よわし・^{わる お}悪雄・^{よわ お}弱夫」のようなもの——ならば、受け入れられないことになる。「名は人なり」

²⁰ 拙作「現代日本語形容詞の表記についての一考察」を参照されたい。

²¹ 昭和二六年四月東京高裁判定・荒木良造『名乗辞典』による。

というのは日本も台湾も同じである。例の「悪魔」とか「阿久魔」とかいう名は、法律上認められても、将来、その子が精神的苦勞をすることが免れないと予測される。

なお、この度の考察によって、次のようなことが明らかになった。一つは、人名形容詞と現代形容詞とは違っていること。もう一つは、現代形容詞の研究には、古典の基盤が必要なものであること。現代形容詞の知識で人名形容詞のことを考えても、理解できないことがある。表記様式、漢字の読み、語構成、意味など、随所に古典語の影がさして、現代形容詞と違った部分がある。現代語研究には、古語の知識は欠かせない素養である。

参考文献

- 秋永一枝 1984 「共通語のアクセント」
『日本語発音アクセント辞典』第 39 刷 日本放送協会
- 金田一春彦 1958 『日本語アクセント辞典』
- 浅見 徹
1983 「上代語概説」『時代別国語大辞典上代編』3 刷 三省堂
- 橋本四郎
- 荒木良造 1988 『名乗辞典』 東京堂
- 小松英雄 1981 『日本語の世界 7 日本語の音韻』 中央公論社
- 北原保雄 1967 「形容詞のウ音便」『国語国文』三九六号 京都大學國文學会
- 寿岳章子 1990 『日本人の名前』（新装版） 大修館
- 田代晃二 1990 『美しい日本語の発音』13 刷 創元社
- 蜂矢真郷 1983 「『時代別国語大辞典上代編』語末索引稿（三）」『萬葉』第
百十六号 萬葉學會
- 林巨樹・他 1991 「古今形容詞一覧」
『品詞別日本語講座 形容詞・形容動詞』（4 版） 明治書院

- 頼錦雀 1993 「現代日本語形容詞の表記についての一考察」『日語教學研究
国際研究会論文集』 東呉大學
- 1994 「日本人の名前」
東呉日本語教育研究会第30回例会口頭発表
- 渡辺三男 1983 『名づけ事典』 毎日新聞社

後記：この論文の作成中、蜂矢宣朗先生及び尾久幸子先生からいろいろご助言
をいただいた。記して深謝を申し上げたい。